

令和3年度 美術学科 FD 研修会報告

日 時：令和3年10月12日（金）15:00～17:00

場 所：短大棟 A135 教室

講 師：美術学科 教授 権田宜子

テーマ：「各教科の到達目標に対する成績評価の適性について」

：「多様な学生の能力を伸長するための取組について」

参加者：権田、堀、新井、本山、和田、大谷、大場

欠席者：なし

今回の研修会では、美術学科の各教科の到達目標に対する成績評価の適性について検証した。前期には遠隔授業が4月末から行われたが、実技演習については対面授業が再開し、遠隔授業の講義科目とハイブリッド形式で6月上旬まで実施された。そのことから、学習過程において内容を理解させるための工夫やその習熟度について、各教科の到達目標に対する成績評価の在り方を各教員がGPAの成績分布をもとに振り返りを行った。他の教員から客観的な視点としての助言もあり、次年度の成績評価で参考にするとともに授業の改善に活かしていくこととなった。

もう一つのテーマとして、多様な学生の能力を伸長するため、美術学科ではどのように取組むのか活発に意見が出された。在学時から卒業時に至る学習成果の積み重ねは、学修評価シートで取得教科の全体を学習成果と各教科の成績との関係から把握できるようになっている。美術学科での実技の伸長については、卒業制作までに積み上げてきた成果として成績評価があり、入学時には入学前課題を教員がチェックし、入学後の課題作品についてはポートフォリオ演習で取りまとめ、卒業制作では作品とともに2年間の学習成果を振り返るコメントを掲示している。そこで、作品を成績で数値化するだけでなく、作品が完成する経緯を追いながら、自分自身やコース担当が振り返りながら学んできた能力を把握し、実技に対する助言が出来るようにする。そのためには、ポートフォリオ演習を1年後期から1年前期に移行し、基礎演習の課題からPCでデータとして取り込む方法を学習することによって、ポートフォリオとして作品から実技能力の伸長を把握できるのではないかという意見があった。これには学生のPCの理解度や、学年全員が対応できる教室の確保、教科担当者や時間割の設定等の様々な問題が考えられる。

美術学科では多様な入学試験があり、各入試を起点に入学前とコースの課題、卒業制作に至るまでを終点とする多くの作品を体系化する方法について検討するとともに、そこで学生が必要とする科目、社会の現状から求められる科目については、教育課程編成において柔軟に取り入れていくよう今後も継続して審議していくこととなった。

